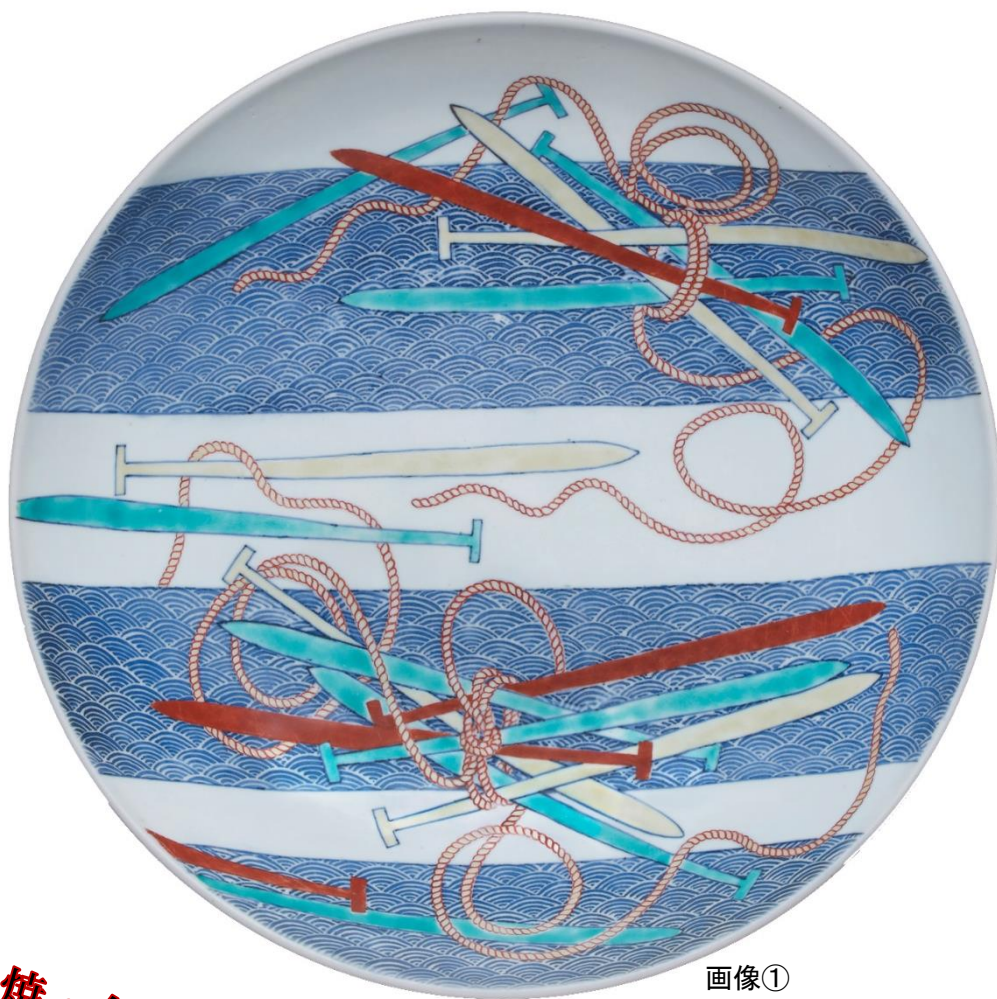




プレスリリース

鍋島焼展

2016年1月7日(木)～3月21日(月・振休)



鍋島焼・色絵尺皿
初出展！

画像①

色絵 十七權繫ぎ文 皿 鍋島

江戸時代（17世紀末～18世紀初）

口径 30.5cm

戸栗美術館所蔵



TOGURI MUSEUM OF ART

戸栗美術館



広報用写真

※以下の展示予定作品の写真データ等をご用意しております。ご掲載の際は注意事項をご覧の上、別紙写真借用申請書をお送り下さい。



画像② 色絵 牡丹文 変形皿
鍋島
江戸時代（17世紀後半）
口径 17.6×12.4 cm
戸栗美術館所蔵



画像③ 色絵 壽字宝尽文 八角皿
鍋島
江戸時代（17世紀末～18世紀初）
口径 20.8×19.4cm
戸栗美術館所蔵



画像④ 青磁染付 団花文 皿
鍋島
江戸時代（18世紀前半）
口径 31.0cm
戸栗美術館所蔵



画像⑤ 青磁 桔梗口双耳瓶
鍋島
江戸時代（17世紀末～18世紀初）
高 28.1 cm
戸栗美術館所蔵

■（表紙）画像① 色絵 十七権紫ぎ文 皿 鍋島

江戸時代（17世紀末～18世紀初） 高 8.5cm 口径 30.5cm 高台径 15.9cm

十七本の権を綱で繋いだ躍動感のあるデザインの大皿。権を文様のモチーフとして表すのは工芸品全体を通して珍しく、あまり例をみない文様であるが、本作では不規則に散らした権に綱をからめ、見事に大皿の文様としてまとめあげている。裏文様は三方に七宝結文、高台は櫛目文。本作は長くヨーロッパに伝わり、日本ではその存在が知られてこなかった。鍋島焼の色絵尺皿は現存数が少なく、本作は新資料として大変貴重。

■画像② 色絵 牡丹文 変形皿 鍋島

江戸時代（17世紀後半） 高 3.6 cm 口径 17.6×12.4 cm 高台径 12.0×5.8 cm

型押しによって牡丹花の形に成型された小皿で、花びらには薄瑠璃釉が掛けられている。釉の下に白く見える花脈は白泥による堆線の技法が使われているとみられ、精巧に表現されている。赤の輪郭線は前期鍋島によく見られるが、黒の輪郭線は珍しい。裏面には折枝木蓮文を描き、高台は櫛目文。

■画像③ 色絵 壽字宝尽文 八角皿 鍋島

江戸時代（17世紀末～18世紀初） 高 5.6 cm 口径 20.8×19.4cm 高台径 10.6cm

盛期鍋島の中でも名品として名高い八角皿。見込に壽字を白抜きで表し、その周りを宝珠、さらにその外周を宝尽しで囲み、すべてが吉祥の意味を持つ文様で構成されている。明るい色使いの上絵付けも華やかで、慶祝の雰囲気満ちている。裏文様は八面にそれぞれ牡丹唐草文、高台には櫛目文がめぐり、いずれも端正な筆致の染付で描かれている。

■画像④ 青磁染付 団花文 皿 鍋島

江戸時代（18世紀前半） 高 8.0 cm 口径 31.0cm 高台径 14.3cm

青磁・墨弾きによる無地・青海波文の帯を交互に配した地に、三種類の唐花文をバランス良く散らした尺皿。青磁の青緑色と染付の青、素地の白がめりはりのある画面を構成している。裏文様はリボン状の七宝結び文を三方に配し、高台は櫛目文。高台内に黒色で「東」という字が記されているが、いつの時代に書かれたものかは不明。

■画像⑤ 青磁 桔梗口双耳瓶 鍋島

江戸時代（17世紀末～18世紀初） 高 28.1 cm 口径 10.8 cm 高台径 9.7 cm

桔梗の花をかたどった五弁花形の口縁を持つ瓶。技巧に凝った獣耳は、中国・清時代の作例を連想させる。中国の青磁は古くから日本に多くもたらされており、江戸時代にはそれらに倣った青磁が生産された。鍋島焼の青磁は素地が純白であるため明るい青緑色に仕上がったものが多い。この瓶も口縁や耳の彫刻部分に素地の白さを見て取ることができる。高台畳付のみ露胎。

以上を含む、約 70 点を展示予定。



展覧会概要

17世紀初頭、佐賀・有田に日本初の磁器である伊万里焼が誕生しました。その技術を昇華させ、17世紀中期より製造が始まったのが鍋島焼。徳川将軍家へ献上することを目的としたうつわです。佐賀鍋島藩は、技術漏洩防止のため人里離れた伊万里・大川内山（おおかわちやま）に直営窯・鍋島藩窯を築き、優秀な陶工を集め、採算度外視でその製造に当たりました。

今展では、技法・意匠ともに最も洗練された最盛期の鍋島焼を中心に、その前後の作品を含めた約70点を展示。名品の数々から鍋島焼の変遷をご紹介します。また、鍋島家に伝わった図案帳の一部を特別公開いたします。



青磁染付 雪輪文 皿
鍋島

江戸時代（17世紀末～18世紀初）
口径 20.2 cm

※なお、概要の要約が必要な場合は以下の文章をご参照ください。

■ 35 word

初出展の色絵尺皿を含む鍋島焼の名品約70点および図案帳の一部を特別公開。

■ 89 word

17世紀中頃に誕生した鍋島焼は、徳川将軍家へ献上され、日本磁器の最高峰として名高いやきもの。初出展の色絵尺皿を含む名品約70点からその変遷をご紹介します。図案帳の一部も特別公開。

■ 150word

17世紀中頃に、徳川将軍家への献上を目的に創出された鍋島焼。佐賀鍋島藩は直営窯に優秀な陶工を集め、採算度外視でその製造に当たりました。今展では技法・意匠ともに最も洗練された最盛期の鍋島焼を中心に、その前後の作品を含めた約70点を展示し、鍋島焼の変遷をご紹介します。鍋島家伝来の図案帳の一部も特別公開。



展示詳細

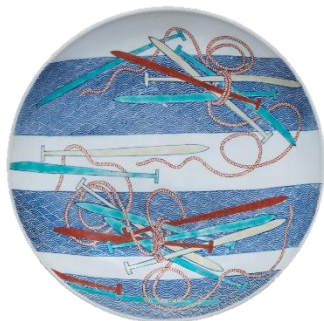
■鍋島焼の特徴

最盛期の鍋島焼の主体は、高い高台を持つ深めの木盃型（もくはいがた）と呼ばれる丸皿であり、その大きさは尺皿、七寸皿、五寸皿、小皿と規格化され、使用される色数も染付の青、色絵の赤・緑・黄の4色に限定されていたと考えられています。裏面に七宝結文や牡丹唐草文、高台に櫛目文を描く組み合わせが多く見られます。

★みどころ①一色絵の尺皿

今展ははじめの一品は、色絵尺皿「色絵 十七權繫ぎ文 皿」。口径 30cm を超える、存在感のある名品です。

鍋島焼の色絵尺皿は日本で現存数 20 数点といわれる貴重なもの。当館所蔵品は長らくヨーロッパに伝わっていたため、その存在が知られてきませんでした。今回が初出展となります！



■鍋島焼の変遷

今展では、鍋島焼の歴史を“誕生期から最盛期まで”、“最盛期”、“最盛期以後”の大きく3つに区分してご紹介いたします。

《誕生期から最盛期まで》

17 世紀後半につくられた鍋島焼には、高い高台や意匠に盛期鍋島への萌芽がうかがえますが、変形小皿が多く、丸皿の場合も見込が浅いのが特徴です。高台文様は櫛目文のほか、猪目繫文や雷文などのバリエーションがあります。また盛期鍋島には見られない錆釉あるいは紫や黒の上絵顔料、金彩の使用がみられます。



錆釉青磁染付 桜幔幕文 皿 鍋島
江戸時代（17 世紀後半） 口径 19.6 cm

《最盛期》

17世紀末から18世紀初頭にかけて焼造されたもの。典型作は深い見込に高い高台のつく木盃型（もしくはいがた）の丸皿で、大きさは尺・七寸・五寸・それ以下、色数も染付の青と上絵の赤・黄・緑と規格化されていたと考えられています。組皿は、丸皿であっても轆轤（ろくろ）成形後に土型を用いて調整し、墨で和紙に文様を描きそれを器面に写す仲立ちの技法を用いて下書きをしたと考えられ、同じ器形・同じ文様につくられました。



色絵 桜霞文 皿 鍋島
江戸時代（17世紀末～18世紀初）
口径 21.0cm

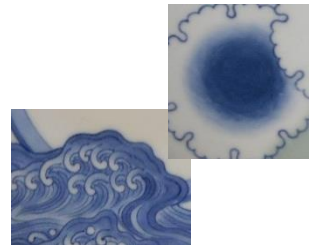
★みどころ②—鍋島焼の文様

献上品という性格上、吉祥・慶祝の文様が好まれたのか、桃や亀甲、宝尽くしなどの文様が多く描かれています。他に絵手本帖から取材したと思われる植物や、和歌に詠われる題材が取り入れられました。

今展では特に植物文様に注目し、桜や蒲公英、椿、木犀など、身近な草花を描いた色絵鍋島 15点を春夏秋冬に沿ってご紹介します。季節の移ろいをお楽しみ下さいませ。

★みどころ③—鍋島焼の技術

染付の表現だけでも、グラデーションやぼかし、墨弾きなど様々な技法が駆使されています。非常に精確な筆致で表され、職人の技術の高さがうかがえます。



《最盛期以後》

18世紀以降は、享保期に出された倭約令の煽りを受け、色絵製品はほとんどつくられなくなり、青磁と染付、あるいは染付のみでも濃淡を巧みに組み合わせたものが多くなります。

18世紀後半に入ると、木盃型の丸皿のほかに、口縁が大きく外に開くものや、変形皿が登場するなど、器形の規格が崩れ始めます。また蓋付きの碗や化粧用水注とみられる水注など、新たな器種がつくられるようになります。



染付 松竹梅文 化粧用水注
鍋島
江戸時代（18世紀後半）
通高 6.8cm

■鍋島青磁(せいじ)



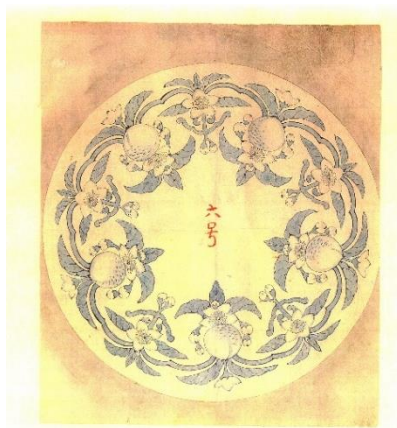
青磁 瓜形香炉 鍋島
江戸時代(18世紀)
通高 12.3cm

鍋島焼の名品は色絵や染付ではありません。純白の素地に澄んだ青緑色の青磁釉を厚く、ムラなく掛けた青磁も見どころです。大川内山に藩窯を築いたのも、青磁釉の良い原料が採集できたから、とも言われるほど。

器種は皿類が多く作られていますが、木盃形ではなく、変形皿が多くみられます。また、花生や香炉、置物なども少なくありません。

■図案帳

当館所蔵の図案帳は、もとは鍋島家に伝来したもので、やきものの図案や、「織物蝶図」と記された蝶文のスケッチなどが描かれています。図案帳の役割としては、鍋島焼を製造する際の指示書、あるいは製品化した意匠の記録、藩の年寄や進物役へ提出するためのアイディアブックなどが考えられ、鍋島焼の意匠がいかにして誕生したのかを垣間見ることのできる貴重な史料と言えます。関連性のうかがえる伝世品とあわせて6点を出展予定。



図案帳 (桃文 皿)



展示解説

展示期間中、第2週・第4週の水曜日と土曜日に、当館学芸員による展示解説を行います。予約は不要です。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください。

■第2・第4水曜 午後2時～ (1月13日・27日、2月10・24日、3月9日)

■第2・第4土曜 午前11時～ (1月9・23日、2月13・27日、3月12日)

※各回、約40分～50分ほどの解説になります。

※団体でご来館のお客様への展示解説も承っております。電話(03-3465-0070)による事前予約制。

お気軽にご連絡くださいませ。



外国語展示解説 (英語)

展示期間中、外国語の展示解説を行ないます。

詳しくは、当館ホームページをご覧ください。



戸栗美術館 概要

戸栗美術館は、創設者・戸栗亨が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987年11月に、旧鍋島藩屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里、鍋島などの肥前磁器および、中国・朝鮮などの東洋陶磁が主体となっており、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



会場 : 戸栗美術館

開館時間 : 10:00~17:00 (入館受付は16:30まで)

休館日 : 月曜日

※1月11日は開館、翌12日は休館、3月21日は開館。

入館料 : 一般 1,000 円/高大生 700 円/小中生 400 円 (団体 20 名様以上で 200 円割引)

※1月11日(月・祝/成人の日)は新成人の方は入館無料となります。

受付にて、年齢のわかるものをご提示ください。

交通 : 渋谷駅ハチ公口より徒歩 15 分/京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩 10 分

※当館には駐車場・駐輪場はございません。

■Youtube 戸栗美術館チャンネル

<http://www.youtube.com/channel/UCGsnhei61hDkvDQlftWy9ZA>

■次回展示予定

2016 年 4 月 5 日 (火) ~ 6 月 19 日 (日)

『古伊万里 — 染付の美 — 展』



■展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人戸栗美術館

広報担当宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3

TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813

URL : <http://www.toguri-museum.or.jp/>

E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp



アートサークルのご案内

陶磁器に親しみ、美術館をより楽しんでいただくために、会員制のアートサークルを設けております。1年間何回でもご入館いただける他、さまざまな特典もご用意しております。

年会費 ￥5,000（税込）／ 発行から1年間有効

※有効期限内のご更新は、4,500円です。

（期限を過ぎてのご更新は新規ご入会と同じく5,000円となります）

- 特典①** 入会から1年間、何回でもご入館いただけます。

- 特典②** ご入会時に戸栗美術館オリジナルグッズをプレゼント。
（はがき5枚、A5クリアファイルのどちらかをお選びいただけます）

- 特典③** 年末に当館オリジナルカレンダーをお送りいたします。

- 特典④** 展示ごとに陶磁器の専門家による特別展示解説にご参加いただけます。
開催日時は会報でお知らせします。
（所要時間約1時間、要予約・定員制・先着順）

- 特典⑤** 会員様を含めた3名以上の団体様は、学芸員による展示解説〈ミニツアー〉を受ける事ができます。（随時予約受付、所要時間約30分）

- 特典⑥** 各展示に1回月曜休館日に開催される特別講座にご参加いただけます。
開催日時は会報でお知らせします。
（参加費1500円、所要時間約3時間半、要予約・定員制・先着順）

- 特典⑦** 企画展ごとに会報「戸栗美術館だより」、招待券2枚、展示ご案内チラシをお届けいたします。

- 特典⑧** ミュージアムグッズを価格の1割引きでご購入いただけます。
（一部除外品あり）